



SPECIAL OLYMPICS
WORLD GAMES
BERLIN 2023

SPECIAL
OLYMPICS
WORLD
GAMES
BERLIN
2023

2023年スペシャルオリンピックス
夏季世界大会・ベルリン

Special
Olympics
Nippon



BERLIN 2023

2023年スペシャルオリンピックス 夏季世界大会・ベルリンについて

2023年6月17日、世界176の国と地域からスペシャルオリンピックス(SO)アスリート、ユニファイドパートナーらの選手団がドイツ・ベルリンのオリンピックスタジアムに集合、50,000名の観客が集まるスタジアム内を行進しました。4年ぶりのSO世界大会となった今大会は、アスリート6,500名が26競技に参加し、9日間にわたって開催されました。SO日本選手団は背中に大きく「Japan」と入ったブルーのウェアを着用して、選手団入場に沢山の歓声が起る観客席に向けて、大きく手を振りながら行進しました。翌18日からは競技が開始され、アスリートたちは日ごろの練習の成果を発揮するべく奮闘しました。また競技以外にも、世界中のアスリートらが現地ボランティアと交流する姿もありました。

6月25日の閉会式をもって、インクルーシブな国際大会となった本大会は無事、閉幕しました。

大会概要

大会名称	2023年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン (英語表記: Special Olympics World Summer Games 2023)
開催時期	2023年6月13日～25日 - ホストタウンプログラム: 6月13日～15日 - 開会式: 6月17日 - 閉会式: 6月25日
開催地	ドイツ連邦共和国 ベルリン
参加者	176の国・地域 アスリート: 6,500 名 コーチ・サポートスタッフ: 3,000 名 ボランティア: 18,000 名
実施競技	全 26 競技 陸上競技、自転車、ハンドボール、セーリング、バドミントン、馬術、フィールドホッケー、柔道、競泳、バスケットボール、バスケットボール3×3、サッカー、カヤック、卓球、ビーチバレーボール、フットサル、ゴルフ、オープンウォータースイミング、テニス、ボッチ(SOボッチャ)、体操競技、パワーリフティング、ボウリング、新体操、ローラースケート、バレーボール
その他のイベント	・ホストタウンプログラム ・ヘルシー・アスリート・プログラム ・ユニファイドスポーツ® 体験 など



SPECIAL OLYMPICS
WORLD GAMES
BERLIN 2023



©2023 Special Olympics



©2023 Special Olympics

SO日本選手団 73名

団長: 平岡 拓晃 (公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 (SON) 理事長)

アスリート・ユニファイドパートナー: 45名

コーチ: 20名

団長・副団長・メディカルスタッフ・SONスタッフ: 8名



©2023 Special Olympics Asia Pacific



Unified Sports[®]

#Unbeatable Together
一緒なら、負けない。

～インクルージョン社会の実現～

大会スローガンである「Unbeatable Together/一緒なら、負けない。」はSOが推進するユニファイドスポーツ[®]とも深くつながっています。ユニファイドスポーツ[®]は知的障害のあるアスリートと、知的障害のないパートナーがチームとなり競技を行うSO独自の活動です。SOでは現在、ユニファイドスポーツ[®] 推進・普及に向けて取り組んでおり、SO活動を表す1つの重要なキーワードです。今回、SO日本選手団からは「ボウリング」、「サッカー」、「卓球」の3競技がユニファイドスポーツ[®]として参加しました。アスリート、パートナーがどのようにしてチームを組んだのか、ユニファイドスポーツ[®]の練習、世界大会までの道のり、そして今後に向けて語る姿は、インクルージョン社会の実現へ大きな力となります。



インクルージョンの輝き

ユニファイドスポーツ®の世界大会で
共に挑み、心をつなぐ2週間。

スペシャルオリンピックスの世界大会にて、知的障害のあるアスリートと知的障害のないパートナーがペアを組んで共に競技するユニファイドスポーツ®。各会場で、インクルージョン社会を体現し、お互いが理解と尊重を共有しながら、共にスポーツを楽しむ姿がありました。

Table Tennis

卓球(ユニファイドスポーツ®) アスリート

海老澤 京子 (SON・埼玉)

他国のユニファイドチームはパートナーがアスリートに試合のとき指示している事が多いなと感じました。

競技ではサーブミスなどした時に1人だと自分で考えながら競技をしていかないといけないけどユニファイド競技はパートナーと一緒にだからこそ失敗した時に声をかけてくださったり不安を安心にかえてくださったり、メダル獲得もパートナーと一緒に戦えたので良い色のメダルがとれました。

ユニファイドが終わってからもシングルス、ミックスダブルス共にパートナーが全力でアスリートを応援してくれました。ユニファイドはパートナーと一緒に戦えるところが良いです。生活面でパートナーが体調の変化にすぐに気づいてくださいました。パートナーの方にすごく感謝しています。食事の時もビタミンとったほうが良いよとアドバイスをしてくださりました。パートナーに感謝です。2週間ありがとうございました。ユニファイドに参加できてすごく良かったです。



Table Tennis

卓球(ユニファイドスポーツ®) パートナー

犬竹 真紗美 (SON・埼玉)

初めて、ユニファイドダブルスという競技で参加させて頂きました。アスリートと一緒に過ごした2週間は、苦しいことや、嬉しいことを共に感じることで、さらに信頼できる関係になったと思います。

プレーではもちろんお互いを頼りますが、パートナーとして、アスリートの精神面でのサポートに力不足を感じました。慣れない環境で、最高のプレーを発揮するためには、どうすればいいか？またコーチではなくパートナーとしての役割は何か？と模索しながら過ごした時間もありました。パートナーとして、アスリートと同じ目線で、大会に参加できたことは、本当に貴重な経験でした。競技者として、心から楽しめたことに感謝しかありません。

また、他国のユニファイドパートナーからも、たくさんの事を学びました。パートナーと一緒にいるだけで、アスリートの表情がやわらかくなるのを見てわかりました。のびのびとしたプレーからも、パートナーを信頼していることが伝わってきます。様々な形で、お互いを尊重しあっている姿をみて、ユニファイドという競技の素晴らしさを改めて感じました。



Football

サッカー(ユニファイドスポーツ®) アスリート

野田 拳任 (SON・熊本)

ユニファイドサッカー決勝戦チェコに勝って優勝することができた。試合が終わった瞬間、コーチやパートナー、アスリート全員泣いていた。けど僕はその時は涙は出なかった。けど試合後にグラウンドでチーム全員と応援の為にドイツまで来てくれた家族全員と優勝の写真撮影をする時、まわりみんなは笑顔なのに僕だけ泣いていた。優勝して嬉し涙でもプレッシャーから解放されて出た涙でも無かった。もうみんなとサッカーが出来なくなるとしたら涙が止まらなくなった。

短い時間だったけどコーチやパートナー、アスリートみんなとサッカーができてホテルでも楽しい思い出ばかり。本当にみんなの笑顔が嬉しかった。涙が止まらなかった。

Football

サッカー(ユニファイドスポーツ®) パートナー

太田 伶 (SON・長野)

大会期間を通じて互いの個性を理解し、ピッチ内外問わず同じ時間や目標、成功体験を共有することができました。

普段から連絡を取り合う仲ではありますが、大会期間中はホテルでの生活や観光等で何気ない会話が増え、普段は知ることができない互いの一面を知り、より強固な友情が育まれました。こうして自然に構築された関係性がピッチ上で表現され、日を追うごとに仲間を思いやる献身的なプレーが増えました。その結果、延長の末2-1でチェコを破り、目標としていた金メダルを勝ち取りました。

あらゆる局面で相互に良い影響を与えることができるのはユニファイドスポーツ®の強みであり、共生社会を築くための原動力になると改めて実感しました。





ATHLETE & COACH

感動の共振

アスリートとコーチが語る世界大会一。

世界大会を終えたアスリート、コーチに大会の様子を伺いました。
2週間にわたる競技の中で経験した感動、成長、そして共に築いた絆が、
彼らの心に深く共振しました。

Athletics

陸上

競技会場: Olympiapark
日本選手団参加アスリート数: 4名



参加アスリート感想

渡邊 薫乃 (SON・愛知)

私のベルリン大会での目標は1500mと800mの自己ベスト更新でした。そのためにSOのプログラム以外にも雨の日を除いてジョグトレーニングをほぼ毎日続けました。その結果、両方の種目で自己ベストを更新できました。とても嬉しかったです。そして日本の陸上チームとしてリレーにも参加しました。チームの仲間とみんなで銀メダルを獲得できたことはもっと嬉しかったです。

800mで一緒に走ったカナダのアスリートと、言葉はわからなかったけど身振り手振りでやり取りしました。その他にも色々な国のアスリートとピンバッチを交換して、とても楽しかったです。出会えたみんなに負けないように、これからも陸上を頑張っていきたいです。



競技総括

渡邊 光春 コーチ(SON・千葉)

スペシャルオリンピックスの「S」の大切さを実感したワールドゲームでした。日常のトレーニングから世界大会にいたるまで、いつでもどこかで活動が行われているスペシャルオリンピックス。世界大会に集まった、世界中のアスリート・コーチ・ボランティア…SOの仲間たちに心のバリアはなく、笑顔と熱い声援で溢れていました。

また、地区でのトレーニングの積み重ねや、周りを思いやる心を大事にするからこそ、大舞台上で輝く笑顔を沢山見ることができました。改めて競技能力だけでなくスペシャルオリンピックスの意義や魅力を、日頃からアスリート・ファミリー・コーチで共通認識として活動していくことの大切さを感じました。



Basketball

バスケットボール

競技会場: Messe Berlin
日本選手団参加アスリート数: 10名



参加アスリート感想

小林 樹梨 (SON・神奈川)

私は中学の時にバスケットを始め高校に入ってからSOに入り、世界大会出場を夢見ていました。世界大会では外国のアスリートのプレーを見て足りない所を勉強したいと思っていました。日本代表のキャプテンとしてのプレッシャー、他県の人とのコミュニケーションなどに悪戦苦闘しました。世界大会では外国人の体格がかなり大きくて驚きました。日本人は背が低いのでパスがかなり重要になってくる事がわかりました。カナダ戦は1点差だったのでとても悔しい銅メダルになってしまいました。キャプテンとしてキツク言ってしまう事もあったけど一緒に最後まで戦ってくれた最初で最後の最高の仲間との絆と最高の舞台上で戦えた事が私には金メダルになりました。

競技総括

臼見 俊彦 コーチ (SON・神奈川)

アスリートとの関係構築というほど大きな事ではなく、いまアスリートが何を考えこちらの話をどこまで理解しているかの反応を見ながら一人一人丁寧に対応し、自然に冗談を交えた会話もできるような間柄になり自分を信用してもらえるように努めています。2023ベルリン大会に初めて出場し感じたのは、言葉・習慣及び文化も違う人々が大勢集まり、国際大会の大きさを感じました。過去の経験を体験している方もいますが、毎回大会運営方法も進化していく中で自分で感じ、大会運営のデジタル化等にも対応できるようにしなければいけないと思います。

今後の大会も開催国によっても、ベルリン大会とは大会運営方法も違ってくると思います。過去の経験は大事ですがその経験にとらわれず、その時の環境に対応して行く事が必須だと思います。



参加アスリート感想

池上 寛朗 (SON・鹿児島)

ベルリン大会に出場して、海外はユニファイドスポーツ®も盛んでとても良く感じました。ユニファイドのルールは難しいのでもっとわかりやすくなればと思います。

今回日本代表として参加して、とても自分の事は自分ですとか自分の体調管理も全て勉強になりました。海外のアスリートや海外のコーチという人達といっぱい仲良くなりました。みんなも世界大会で友達をいっぱい作って下さい。とっても楽しかったです。

競泳

競技会場: SSE
日本選手団参加アスリート数: 4名

Swimming

競技総括

下田 昇吾 コーチ (SON・鹿児島)

競泳は個人競技のイメージが強いが私たちは「競泳チームとして頑張る、1人ではない」を意識して大会に臨みました。その結果、華麗な泳ぎで見ていただけで感動と勇気を与えてくれました。そして全員ベストタイムを出すことができ、アスリートにとって次のステップへのモチベーションに繋がったと思います。

また宿泊先でも各国コーチスタッフ他、飛び交う言葉の違いはあるがアスリートのメダルをみて、喜び合う姿こそがこれがスペシャルオリンピックのいいところと感じました。ワールドゲームで貴重な経験をさせて頂いたので地区に持ち帰り、アスリートのより一層の自立発展の為に日常プログラムと一緒に楽しい汗を流していきます。



Tennis

テニス

競技会場：Messe Berlin

日本選手団参加アスリート数：2名



参加アスリート感想

山崎 智世 (SON・東京)

サーブのスピードをアップさせたいので、普段のプログラムで、打点を少し前にするように練習しました。

生活面では、もともと早寝早起きで問題ないので、主にホテルでの洗濯の練習を特訓しました。脱水はバスタオルに包んで丸めることなどを母と相談して、本番はバッチリでした。

世界大会に出場して感じたことはミックスダブルスの試合で、他国の選手が自分のパートナーのミスに怒っていたり、パートナーの取る球までぶつかる勢いで取りに行くなどチームワークが悪いチームが何組いました。パートナーとの信頼関係がとても大事だと思いました。稲垣コーチは励まして下さり、池邊コーチはリラックスさせて下さり、男子の金平 捷太郎さんとは合宿での練習を通じて仲の良いチームだったので優勝できたのだと思います。

競技総括

稲垣 正幸 コーチ (SON・千葉)

SOの活動やコーチの育成については、私は現在特別支援学校の体育の教員をしています。また、私が所属している日本プロテニス協会(プロのテニスコーチとして活動経験あり)とも連携をして、知的障害のある人たちへのテニスの普及育成活動にも取り組んでおりますので、今後は、日本プロテニス協会や各自治体と協力をしてプロのテニスコーチの専門的なレッスンを受けて(SOのコーチも一緒に受レッスンをけることにより、個々の技術や指導力の向上につながる)、ボールを打つ爽快感、ボールをコントロールできた時の喜び、ラリーを続ける際の高揚感などテニスの楽しさをアスリートが体験することにより、生涯スポーツへつながり、アスリートの健康増進に一役お力添えできたらと思っています。



Football

サッカー

(ユニファイドスポーツ®)

競技会場：Olympiapark

日本選手団参加アスリート数：6名 / パートナー数：5名

参加アスリート感想

山本 富 (SON・長野)

初めての世界大会で頑張ろうと思った事は、チームのみんなと協力してサッカーをして優勝する事でした。目標の通り、協力して金メダルを取れました。1人じゃなくて出場したメンバーだけじゃなくて、コーチ達や家族、長野のサッカープログラムの仲間みんなと協力して優勝できたと思います。だからみんなも金メダルです。

世界大会に参加して感じた事は、もっといろんな事ができるようになりたいです。もっと強くなりたいです。あと、いろんな人とまたサッカーがしたいです。チームのメンバーにはありがとうございましたと伝えたいです。ドイツに行けて嬉しかったし楽しかったです。いろんな皆さんありがとうございました。

競技総括

春原 紀子 コーチ (SON・長野)

サッカー競技のユニファイドという形を構築していく中で、やはり1番難しいのがパートナーの意識かと思っています。試合の中での声がけ一つにしても、言葉の使い方一つで、パートナーをコーチと認識してしまうアスリートもいます。障害の有無に関係なく、オンザピッチ・オフザピッチのどちらにおいても、仲間であるという意識付けのための、コーチ側からの決して押し付けではない、パートナー達がアスリートとの関わり方を考える上でヒントとなるワードを伝え、伝えるタイミングも考え、そこから生まれる関係性をより一層強固なものにしていく事が重要だと感じています。



Equestrian

馬術

競技会場：Olympiapark
日本選手団参加アスリート数：2名

参加アスリート感想

福村 真央 (SON・神奈川)

日本の馬術チームはSO世界大会に初めて出場を果たしました。

馬術は開催国の馬で競技を行うので、私は世界大会に向けて初対面の馬でもわずかな時間でコントロールできるよう、様々なタイプの馬に乗り、指示をしっかりと伝える練習を行いました。そして、馬の力を最大限発揮できるよう、騎乗姿勢や馬術経路で評価される個所の練習を重ねました。私が騎乗したドイツの馬はとても素晴らしく、落ち着いて競技に集中することができ馬場馬術で銅メダルが取れてとても嬉しかったです。

この銅メダルは、一緒に練習してきたアスリート仲間や、いつもアドバイスをくれたコーチ、そして素晴らしい馬のおかげで取れたのだと思います。ありがとうございました。

競技総括

太田 恵美子 コーチ (SON・神奈川)

馬術は2005年に日本で初めてコーチクリニックを行い3回のナショナルゲームを経て念願のワールドゲーム参加が実現しました。開会式ではNIPPONのプラカードの後、最前列を行進させて頂き光栄でした。ネット情報だけではなく実際に参加して理解できたことが多くあります。

馬大国ドイツ開催ならではの集められたクオリティーの高い馬達とその馬を提供してくださるボランティア、主催者との出会いや、他国のアスリート、コーチとの馬を通じた交流は参加したからこそその経験です。全てが初めての環境の中でアスリートは持っている力を出し切りスキルだけではなく人間としても急成長したと思います。今後この経験を他地区のプログラムと共有して参る所存です。



Table Tennis

卓球

(ユニファイドスポーツ®)

競技会場：Messe Berlin
日本選手団参加アスリート数：2名 / パートナー数：2名

参加アスリート感想

森松 奨羅 (SON・埼玉)

僕はベルリン世界大会に選ばれた時から気合いが入りました。ユニファイドダブルス、シングルス、ミックスダブルスの3種目に出場しました。いつもより練習内容を変えたりパートナーとの練習量を増やしたりしました。自分なりに満足した練習をこなしていざドイツへ！なるべく緊張しないで練習の成果をだそうとしました。ユニファイドダブルスは、パートナーと、練習の成果を出せて金メダルが取れました。2人で勝ち取った金メダルは、とても嬉しかったです。あとは、銀メダル2個でした。目標の金メダル3個には達しませんでした。各国の選手と楽しく話したりドイツの魅力を感じたりとても素敵な経験ができました。

競技総括

大隅 順子 コーチ (SON・兵庫)

国際大会でのコーチの任務を無事果たせたのは、ひとえに家族や同僚など皆様の支えがあったからこそです。そして日本選手団の一員になったことは人生の宝物です。ユニフォームの大きな箱が届いた時、毎回飛行機に乗る時、毎夜ベルリンのホテルのベッドで眠りにつく時、多くの方がこの活動を支えてくださっていることを実感していました。ありがとうございます。JAPANの文字に「日本代表」であったことを誇りに思います。頂いた全ての物は思い出と共に帰国後も大事にしています。自分も元選手なので、ともすればトップアスリート育成にこころを奪われがちになりますが、SOの理念「全ての人々が輝く」という原点に戻り、これからも地道な日常のスポーツトレーニングプログラムを大切にしていきますね。





Badminton

バドミントン

競技会場: Messe Berlin

日本選手団参加アスリート数: 2名

参加アスリート感想

竹中 有花 (SON・大阪)

世界大会に参加が決まっても嬉しい気持ちになりました。合宿で世界大会に向けての話を聞くうちにだんだんと頑張るぞと思いました。家で筋トレをしたり、バドミントンの練習を休まずに行きました。

いよいよベルリンに行く日、現地はとても遠かったです。

ホストタウンでのトレーニングはとても楽しく、街もたくさん歩いて見ました。

その後、ベルリンでの予選が始まり、コートもたくさんあって、とても緊張しました。シングルの予選は全部勝ってとても嬉しかったです。ダブルスの予選と決勝は上手くできませんでした。最後のシングルの決勝では負けてしまいました。悔しかったです。

世界大会で勝つことはとても難しいけれど、世界の色々な国の人と試合が出来て楽しかったです。開会式で入場行進したこと、閉会式でみんなと踊ったことなどたくさんの思い出が出来ました。

競技総括

小宮山 幸治 コーチ(SON・岡山)

バドミントンチームの合言葉は「やる気・元気・笑顔で最後まであきらめない」でした。合宿当初から、また、ベルリンでの予選・決勝を通じて合言葉のように楽しく、お互いが元気になる言葉かけを行い実行することが出来たと思います。

各国・地域でスタイルが異なり、試合に向かうアプローチも違い、感心することや、違和感を覚えることもありましたが、アスリートが全力を出し切れることは同じだと感じました。アスリートへの生活面から試合まで、楽しく向かうことが出来るようコーチとしてまっとうできたとは思っています。アスリートが表彰台で笑顔でピースサインなど自己表現が出来ていて誇りに思えました。“やる気・元気・笑顔”



Bowling

ボウリング

(ユニファイドスポーツ®)

競技会場: Bowling World

日本選手団参加アスリート数: 3名 / パートナー数: 3名

参加アスリート感想

吉本 敦 (SON・神奈川)

試合でなかなか上手くできなかつたりミスしてしまっても、一緒に出ているパートナーが大丈夫とハイタッチしてくれて、落ち込まずに楽しく自分の力を出しきってできました。

試合後の表彰式では、勝ち負けに関係なしに皆で国もかわらずにグータッチ、ハイタッチしたり、肩組んで写真撮ったり、言葉は通じなくても何となく言っていることを理解して、笑顔で握手してバッジ交換したりして、とても楽しい経験ができました。どこの国の人とも笑顔で楽しく大会に参加できたので勉強もできてよかったです。このことを活かしてこれからも次の目標に向けて頑張ります。

競技総括

柳井 祥晴 コーチ(SON・大阪)

まず、選手団合宿でアスリート、パートナーの競技能力と特性を把握すること。また、ゲームやレクリエーションなどを通して、仲よく楽しく活動できるようにチーム作りに心掛けました。競技の練習だけでなく、いろいろな活動で互いのことを理解して行動することができるようになりました。また、できないことにも助言をしたり助け合ったりすることも出てきました。

世界大会では、体調不良のアスリートもいましたが、それぞれが自分の持てる力を発揮しがんばりました。競技結果もとても満足できる結果となり、喜んでいきます。今回の貴重な経験を今後の生活に活かしてもらえることを望んでいます。



ボランティア参加、 そしてユニファイドパートナーへ

～『Be with all』を掛け声に～

国内外でSO普及活動・推進に共に注力いただいているスペシャルオリンピックス日本(SON)パートナー企業のトヨタ自動車株式会社から、社員である掛水 信行さんがボウリングのユニファイドパートナーとして今大会に参加しました。

掛水さんがユニファイドパートナーになったのはSOボランティア経験がきっかけでした。ユニファイドパートナーとして心掛けていること、企業の社員としてSOとどういった関係を構築できるのかを伺いました。



トヨタ自動車株式会社・エキスパート
掛水 信行
ボウリング・パートナー(SON・愛知)

最初に世界大会のユニファイドパートナーとして日本選手団に選んで頂いた事、大変光栄に思います。ありがとうございました。世界大会に行きたくても行けないアスリートがいる中で私がパートナーとして参加する事は良いのか?と考える時間がありました。その時、私の中で1番好きなフレーズ『Be with all』が後押ししてくれました。多様な社会の実現に向けてシフトしていく中で、パートナーは大変重要ではないか?私達の行動によって社会が変わって行くのではないかと本気で感じ、今大会が今後の会社生活に於いても良い影響を与えてくれると確信し、参加させて頂きました。

『Be with all』を掛け声にユニファイドスポーツ®は多様な社会の実現への近道ではないかと感じています。ボランティア、コーチ、パートナーとして様々なSO活動に参加してきましたが各々に重要な役割がある中で、パートナー(ボウリング)として参加するユニファイドスポーツ®はアスリートに1番近く、対等に接する事ができる関係です。だからこそアスリートの気持ちや思いにも気づく事ができます。多様な社会実現に向け、健常者と言われる全ての方々がこの経験できると良いなと実感しています。世界大会では一生忘れる事のできない貴重な経験ができました。選手団の皆と共に頑張り、悔しがり、楽しみ合う事ができ、アスリートだけでなく、私達パートナーも夢の時間を過ごさせて頂きました。この夢の時間をこの大会だけでなく日常生活で全ての人を感じられる様にパートナーとして、コーチとして、一人の人間として多様な社会を目指し微力ですが活動を進めて行きます。

最後に、この世界大会では役員、医療関係者(順天堂大学&寺倉医師)の皆様が嫌な顔一つせず笑顔で表には出ない裏方としてしっかりサポーターして下さったからこそこの良い成績や安心した活動ができ感謝申し上げます。又、この活動に理解をしてくれている私の家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。今後もユニファイドスポーツ®を皆で広げて行きましょう!!



順天堂大学による メディカルサポート

本大会では、これまでの世界大会に帯同いただいていた寺倉 宏嗣医師に加え、新たに順天堂大学の塩田 有規医師、富樫 維親理学療法士、染谷 咲子看護師にSO日本選手団のメンバーとして参加いただきました。

合宿から派遣時まで不測の事態に備えて、メディカルチームとしてバックアップ体制を構築いただきました。合宿中は足を攣ったりするアスリートらに処置を施していただいたり、大会中では試合で生じた怪我の応急処置、慣れない海外生活面での緊急事態の際、サポートいただくなど、SO日本選手団も安心して練習に励み、そしてベルリンでも競技に臨むことができました。

MEMBER

SO日本選手団メディカルチーム



医師
寺倉 宏嗣



医師
塩田 有規



理学療法士
富樫 維親



看護師
染谷 咲子

SPECIAL OLYMPICS NIPPON

MEDICAL TEAM

Report

SO世界大会ベルリン報告書

By

塩田 有規 医師

順天堂大学の染谷看護師と富樫理学療法士、そして私が医師として、初めてスペシャルオリンピックス(SO)世界大会ベルリンに帯同しました。今回の帯同でSOは競技力だけでなく、健康と自己実現を促進し、知的障害者の共感と包摂を大切にすることをスポーツ競技大会であることを再認識しました。また、スポーツの素晴らしさと知的障害者とスポーツの親和性を改めて感じることができました。

今回メディカルサポートを行うにあたって、今まで知的障害者のスポーツ現場に関わる機会が少なかったため、アスリートやパートナーがどのような外傷や疾病を抱えているのか知識が不足していました。そこで、今回SO日本選手団初の試みとして、同意を得た全アスリートとパートナーに対して外傷・障害、疾病調査を行いました。15日間で行った医療対応は合計84件に上り、そのうち71件(84.5%)がアスリートの外傷や疾病で、特にサッカーやバスケットボールのようなコンタクトプレーのあるスポーツでの外傷が多く見られました。競技を休まざるを得ないケースはわずか12件(14.3%)で、軽症が大半でしたが、対象人数と大会期間を考慮すると他のスポーツ競技大会と比べてやや多い結果でした。

今大会のみの結果ですので、今後も調査を継続し、SO参加者のサポートに役立てていきたいと考えています。

SO参加を通じてアスリートの純粹さや姿勢、競技への不安などを共有できる貴重な体験となりました。我々一同、引き続きアスリートの皆様にお役立ちできるよう努めてまいります。今後もよろしくお願いいたします。



バスケットボールの試合での対応

誰もがスポーツを楽しむ権利がある。



SON ドリームサポーター
小塚 崇彦
バンクーバー五輪フィギュアスケート 出場

SON ドリーム サポーター

小塚 崇彦さん、
玉田 圭司さんが見た
世界大会

SONドリームサポーター・小塚 崇彦さん、玉田 圭司さんが、実際に現地へ赴き、各競技会場でSO日本選手団にエールを送りました。試合後にも直接SO日本選手団メンバーと試合内容やベルリンでの生活面についてお話しをするなど、積極的に交流をはかっていたお2人が見た本大会、そしてSO活動についてお聞きしました。

私がスペシャルオリンピックスの活動を始めたのは2016年のお台場でのエールランがスタートになります。当時、臼蓋形成不全から大腿骨頭壊死となり、競技者から引退して間もない頃でした。なかなか自分の身体が思うように動かない状態が続き、辛い時期でもありました。ちょうどその半年後ぐらいに、選手の時から所属していたトヨタ自動車の担当部署の方から連絡がありました。

当時はスペシャルオリンピックスについての知識はなく、スペシャルオリンピックスについて調べたりするに連れて、一緒にリンクで練習していたアスリートことを思い出したり、少しずつ興味を持っていきました。

実際にエールランが開催され、多くのファミリー、企業サポーターの皆さんの共に盛り上げていくというパワーに驚いたのを覚えています。サポーターとして活動を始めた頃から、「誰もがスポーツを楽しむ権利がある」「できる時に挑戦を」という自分自身の思いと共に、スペシャルオリンピックスを応援しています。



トヨタスポーツセンターでの合宿でアスリートたちと初めて会った時から僕はオープンマインドで接することを心がけたこともあり、初日から良いコミュニケーションを取ることができたと思っています。僕は現役時代から「楽しむ」ことがスポーツを行う上で最も大切なことだと考えてきました。この想いもあり、まずは練習を楽しんでもらえることを第一に考えていたので、そうすることによって彼らは緊張することなくプレイできました。現地に入ってから接する機会はそこまで多くはありませんでしたが、試合観戦しているとアスリート、パートナーが、お互いが助け合いながら成長する姿やこのチームで勝ちたいという姿勢が見られました。国内でサッカーをするのと、世界大会で各国のチームと競技することは異なることも沢山あったと思います。フィジカルの強い海外アスリート達へどう挑んでいくのか。こうした時に鍵になるのは共に戦う仲間とのチーム力だと思います。こうしたチーム力があつた結果、金メダルも取ることができ一生の思い出になったのではないのでしょうか。

今大会ではサッカーはユニファイドスポーツ®と

して実施されました。このSO独自の取り組みや、そもそもSO活動をどのようにしていけば国内でも知れ渡っていくのだろうかと考えたとき、やはり、W杯やオリンピック、パラリンピックのように日本全土に知られるためにはまだまだテレビやYouTubeなど、嫌でも目に入るような環境が整っていないと思います。こうした環境面にアプローチしていくことに合わせて、今後、ユニファイドスポーツ®やSO活動が周知されるようになるためには、常に様々な場面で「スペシャルオリンピックス」というワードを発信していくことはもちろん、沢山の方に気軽に地域のSO活動に参加していただくことも活動の普及・促進につながると思います。SOは日本全国の47都道府県に地区組織があり、そこでは日々、多種多様なスポーツプログラムを実施しています。沢山の方が気軽にSO活動に参加して、知的障害のあるなしに関わらず一緒に「楽しむ」ことを体験すれば、ユニファイドスポーツ®、SO活動の普及に必ずつながっていくと思います。

合宿から現地での観戦を経て、サッカーとユニファイドサッカーには特に大きな違いはないと思いました。もし違いがあるとすれば、思いやる気持ち

スペシャルオリンピックスと関わるようになってから、その人の個性に着目するようになりました。スペシャルオリンピックスでは、それぞれの知的障害を個性として捉えます。普段の生活やビジネスの場で、さまざまな人と会いますが、その人を、個性を知り、認められるようになってきたと思います。互いに認め合い、それぞれの長所で短所を補い合ってワンチームで物事を解決していくことによって、1人でできることの何倍にも膨れ上がっていくということを感じています。

ベルリンでの世界大会には、サッカー元日本代表の玉田圭司さんと帯同させてもらいました。ほぼ全ての種目の会場を回らせてもらい、特に日本代表のアスリート達の競技に対しての熱く真っ直ぐな眼差しに触れて来ました。

その中でも彼らを応援する観客の多さ、開会式には観客が5万人を超え、またそうボランティア数も1.8万となり、素晴らしい大会だったと思います。日本で開催したときに、これほどの盛り上がりになるのだろうか。いつかこんな場面が日本でも見られたら素敵だなと思います。

がユニファイドの方が大きいように感じます。ユニファイドがもつ力をより多くの方へ知っていただければ嬉しいです。また、今回、現地ではサッカー競技以外も観戦しました。例えばバスケットボールでは体格差のある相手チームに対して、俊敏な動きでボールを運び進んでいる様子が見られ、自分たちができること、得意なことを最大限に生かしたプレイをしていました。スポーツ全般に言えることですが、人の感情を動かすことができるエンターテインメントだと改めて思いました。スポーツは言葉の壁を越える素晴らしさがあると思います。

お互いが助け合い
ながら成長する姿



SON ドリームサポーター
玉田 圭司
サッカー元日本代表 名古屋グランパスOB

TIME LINE

日本選手団選考から 世界大会までの流れ



2023
1/7 ▶ 9
1月合宿



2022
12月

スペシャルオリンピックス
日本選手団73名が決定!



2023
3/18 ▶ 20
3月合宿

◀19日には、トヨタ自動車社員、中京大学学生の皆さんと「見て・知って・応援するツアー」や「SONドリームサポーター講演会」も開催!

2023
4/28 ▶ 30
4月合宿



2023
6/12
ドイツへ出発

2023
5/19

SO日本選手団
公式ユニフォーム公開



SON アスリートアンバサダー INTERVIEW

SONアスリートアンバサダーは、アスリート自身がスペシャルオリンピックス(SO)の活動で経験したことや想いを発信し、現在よりも広く多くのかたにSO活動そしてアスリートを知っていただけるよう、年間を通してさまざまな活動を行っています。

ベルリン渡航直前 馬術チームZOOMインタビュー



大会開催直前に、スペシャルオリンピックス日本(SON)アスリートアンバサダーたちが、馬術に出場するアスリート・コーチへインタビューを実施。大会直前の率直な気持ちや大会での目標、競技の見どころについて、また、馬術チームの皆さんがSO日本選手団のメンバーに決まって以降、20回以上実施されてきたという「ドイツ語オ

ンライン教室」についてなど、バラエティ豊かなお話を聞きました。この世界大会の機会を、競技に出場することだけではなく、普段出会うことのできない世界のアスリートたちと交流できるチャンスととらえ、語学を学ぶチャレンジもされたことは、アスリートの世界が広がる、価値のある経験となりました。



SONアスリートアンバサダー:

浅野 なつみ(SON・大阪)、小川 真治(SON・広島)、船内 達也(SON・奈良)

動画はこちら

2022年よりSONと包括連携協定を結んでいる中京大学。その中京大学のサッカー部と3月合宿、4月合宿のユニファイドスポーツ®・サッカーの練習においてユニファイド練習試合を実施しました。中京大学サッカー部は200名を超える部員による6部制をとっており、合宿ではU22-AおよびU22-Bのチームの皆さんに参加いただきました。中京大学サッカー部とSO日本選手団ユニファイドスポーツ®・サッカーチームをミックスしたユニファイド練習試合を通じて、中京大学サッカー部の皆さんにユニファイドスポーツ®を体験していただきました。

終始、中京大学サッカー部の皆さんの明るい声出しにより、楽しい雰囲気の中で練習や試合を行うことができました。スペシャルオリンピックスやユニファイドスポーツ®を学生の皆さんに初めて知っていただく機会にもなり、充実した合宿となりました。

“そこではサッカーにおける「あたりまえ」
が当たり前に行われていました。”

畠山 大輝 中京大学スポーツ振興部スポーツ振興課

学生が初めてアスリートと一緒にサッカーをすることもあり、「どんな試合になるのか？」と心配をしていました。しかし、キックオフのホイッスルが鳴ったあと私の目に飛び込んできたのは、まさにサッカーの真剣勝負でした。

初めて顔を合わせた者同士がなんの問題もなくフォーメーションをつくり、パスを回し、声を掛け合う。ボールを必死に追いかけて、シュートをし、それを止める。一緒に汗を流し、時に激しくぶつかる。そこではサッカーにおける「あたりまえ」が当たり前に行われていました。

競技を通じて一瞬で一つになれる。スポーツのすばらしさを肌で感じ、心から感動するとともにSONの活動に改めて敬意を持ちました。



SPECIAL GUEST

スペシャルゲストが 現地で応援!

スペシャルオリンピックス国際本部・グローバルアンバサダーの
中田 英寿様、在ドイツ日本国大使館・特命全権大使の
柳 秀直様が現地でSO日本選手団そして、
世界のアスリートの活躍を観戦・応援してくださいました。



名古屋グランパス様によるご協力

大会派遣前合宿で、名古屋グランパス様
トップチーム練習場ご提供、名古屋グラン
パスアカデミーチームとのユニファイド
練習試合等を実施いただきました。
充実した練習環境のもと、大会では金メ
ダルという結果に繋がりました。



SPECIAL THANKS

TOYOTA

トヨタ自動車様：SO日本選手団の合宿場所のご提供

2023年3月、4月の合宿で愛知県豊田市のトヨタスポーツセンターにてSO日本選手団の合宿地をご提供、そして運動部の皆さまからの協力、社員の皆さまからの応援により、ベルリンに向けて充実した練習を行えました。



SO日本選手団の交換用ピンバッジのご制作



LifeWear

ユニクロ様：SO日本選手団公式ユニフォームのご提供

SO日本選手団73名が大会開閉会式等式典や移動などで着用した全4アイテム(「ポケッタブルUVカットパーカ(3Dカット)」、「ドライカノコポロシャツ(半袖)」、「ウルトラストレッチスキニーフィットカラージーンズ」、「UVカット2WAYストレッチキャップ」)をご提供いただきました。

大会開会式ではユニクロ様ご提供ユニフォームを日本選手団全員が着用して入場し、爽やかなブルーが会場に彩りを添えていました。

また、ユニファイドスポーツ®・ボウリングのアスリート、ユニファイドパートナー計6名の競技ウェア(「ドライカノコポロシャツ(半袖)」、「感動パンツ」)もご提供いただきました。

SoftBank

ソフトバンク様：現地携帯電話のご提供

現地でSO日本選手団の連絡手段としてスマートフォンを貸与いただきました。円滑な情報共有、連絡に活用させていただきました。



日本航空(JAL)様：渡航サポート

SON役員及びドリームサポーターの渡航をサポートいただきました。温かいおもてなしの中、スムーズな渡航ができました。



中江物産様：馬術競技ウェアのご提供

馬術アスリート2名の「競技用ジャケット」をご提供いただきました。



日本ライオンズ様、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)様：ご支援

SO日本選手団派遣事業を日本ライオンズ様、ライオンズクラブ国際財団様にご支援いただきました。本大会のHAP(ハッピー/Healthy Athlete Program)はLCIFのご支援をいただいております。

その他、SONパートナー企業・団体様、ご寄付をいただきました企業・団体様、個人様からの沢山の温かいご支援により本大会派遣事業を行うことができました。今後も、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織として、国内外でスペシャルオリンピクス活動の普及促進を行ってまいります。

RESULTS

競技結果



陸上 / Athletics

氏名	種目	ディビジョン	順位
金万 結音	100m レベルA(男子)	M-Final Plus	5位
木村 真耶加	100m レベルA(女子)	F-Final Plus	4位
上村 勇貴	400m レベルA(男子)	M-Final Plus	4位
木村 真耶加	400m レベルA(女子)	F-Final Plus	3位
上村 勇貴	800m レベルA(男子)	M-Final Plus	3位
渡邊 薫乃	800m レベルA(女子)	F-Final Plus	2位
渡邊 薫乃	1500m レベルA(女子)	F-Final Plus	2位
上村、木村、金万、渡邊	4×100m リレー	X-Final Plus	2位

バドミントン / Badminton

氏名	種目	ディビジョン	順位
猪飼、竹中	ミックスダブルス	MXD07	4位
猪飼 修平	男子シングルス	MS_3B	3位
竹中 有花	女子シングルス	WS_6A	3位

バスケットボール / Basketball

氏名	種目	ディビジョン	順位
SO日本	女子5対5	ディビジョン1	3位

ボウリング / Bowling

氏名	種目	ディビジョン	順位
吉本 敦	男子シングルス	D60	8位
松田 雄太郎	男子シングルス	D60	2位
吉田 彩	女子シングルス	D46	3位
吉本、佐藤	ユニファイドスポーツ ダブルスチーム(男子)	D30	1位
松田、掛水	ユニファイドスポーツ ダブルスチーム(男子)	D30	3位
吉田、西村	ユニファイドスポーツ ダブルスチーム(女子)	D24	4位
吉本、松田、佐藤、掛水	ユニファイドスポーツチーム	D06	2位

馬術 / Equestrian

氏名	種目	ディビジョン	順位
オン 万里	レベルBI イングリッシュ エクイテーション	D03	4位
福村 真央	レベルA イングリッシュ エクイテーション	レベル A-D02	4位
オン 万里	レベルBI ドレスサージュ	レベル B-D02	3位
福村 真央	レベルA ドレスサージュ	レベル A-D02	3位

サッカー / Football

氏名	種目	ディビジョン	順位
SO日本	男子 7人制ユニファイドサッカー	M2	1位

競泳 / Swimming

氏名	種目	ディビジョン	順位
辻村、鶴見、石坂、池上	4×50m フリーリレー ※男女混合	C03	7位
池上 寛朗	100m 個人メドレー レベルA(男子)	MA02	3位
鶴見 愛	100m 個人メドレー レベルA(女子)	FA01	4位
石坂 梨紗	50m バタフライ レベルB(女子)	FBO1	1位

テニス / Tennis

氏名	種目	ディビジョン	順位
山崎、金平	ミックスダブルス レベル5	L5 DX01	1位
金平 捷太郎	男子シングルス レベル5	L5 SMO3A	1位
山崎 智世	女子シングルス レベル5	L5 SF03B	1位

卓球 / Table Tennis

氏名	種目	ディビジョン	順位
海老澤、森松	男子ダブルス ※日本は男女混合チーム	MD30+01	2位
森松、犬竹(祐)	男子 ユニファイドダブルス	UMD-1	1位
海老澤、犬竹(真)	女子 ユニファイドダブルス	UWD-2	2位
森松 奨羅	男子シングルス	MSU29-D1	2位
海老澤 京子	女子シングルス	WS+30-D1	1位



大会を振り返って

SO日本選手団 団長からのメッセージ

はじめに、日頃より御支援、サポート頂いているSON地区組織、パートナー企業・団体、関係省庁の皆さまに厚く御礼申し上げます。皆さまの多大なるご声援のもと、スペシャルオリンピックス日本アスリートたちは、世界大会ベルリンという大舞台で自らを思い切り表現することができました。

前年に行われた『第8回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島』後に日本選手団が結成されてから半年超。今大会へ向けて打ち合わせや合宿などを幾度も重ねて準備して参りました。万事順調であったわけではございません。ときには困難な場面に遭遇することもありました。しかしその度に、アスリートやパートナー、コーチ、そしてスタッフが「自分たちが“今”できることは何か」と、同じ思いでフォローし合うことによって乗り越えることができました。その光景はまさに、ユニファイドであり私たちスペシャルオリンピックス日本が目指す「Be with all®」そのも

のであったと感じております。

そのような経験も通して今大会の日本チームのスローガンでありました「プライド」。それは私にとってまさにそのような素晴らしい選手団の皆さんと大会に参加できたことそのものだと実感しております。このような機会を頂けたことに心より感謝申し上げます。

今後はこれまで以上にスペシャルオリンピックスの活動、スポーツを通して互いの違いを認め合い助け合えるインクルーシブ社会への更なる発展に尽力して参ります。引き続きご声援いただけましたら幸いです。



SO日本選手団 団長
公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 理事長

平岡 拓晃



スペシャルオリンピックス日本
ナショナルパートナー、プレミアスポンサー

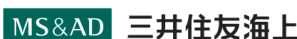


LifeWear

TOYOTA

AOI Pro.

SoftBank



フレンドシップスポンサー

東京海上日動火災保険株式会社、三井不動産株式会社、リシュモンジャパン株式会社、SCSK株式会社、
株式会社東京通信グループ、新日本空調株式会社、株式会社セールスフォース・ジャパン



2024年 第8回スペシャルオリンピックス日本 冬季ナショナルゲーム

長野 2023/11/18-19 *開会式 *フロアホッケー *フロアボール 2024/2/24-25 *開会式 *フィギュアスケート *ショートトラックスピードスケート

北海道 2024/2/11-12 *アルペンスキー *クロスカンリースキー *スノーボード *スノーシューイング 大会について

